



## ものづくり先端技術研究センターオープンハウス

6月20日(木)午後、ものづくり先端技術研究センターは、平成13年度から実施している中小企業庁・NEDOプロジェクト「ものづくり・IT融合化推進技術の研究開発」の推進状況を一般公開しました。

本プロジェクトは、①加工全般にわたる技能の技術化に関する研究開発、②設計・製造支援アプリケーションのためのプラットフォームの研究開発からなり、機械部品の加工に関わる技能をデジタル化し、デジタル技能の企業間利用並びに独自の作り込み・進化が可能な「インターネット加工技術ハンドブック」を構築します。さらに、利

用者自らが改善可能な設計・製造支援プラットフォームを開発し、加工技術ハンドブックを実装して、コンポーネントベースの設計基盤の実用性を検証します。

オープンハウスでは166名の参加者があり、プロジェクト概要および研究設備の紹介を行いました。データベースの性格、プラットフォームの利用形態等に高い関心を寄せる多くの方と主催者との間で熱心な討論が行われました。当日のアンケートには、高レベルデータベースの必要性、データベース検索手法の開発、データベース構築のための技能要素分析の重要性、高付加



価値ものづくりへのターゲットの絞り込みなどについてコメントがありました。本プロジェクトは、実用性と先進性との両立という課題を掲げていますが、産業界のニーズと期待とを実感し、これまでの研究開発方針に確信を深めるとともに、本プロジェクトの目標達成への責務の念を新たにしました。



## モノづくりワールド2002名古屋

6月12日(水)～15日(土)の4日間にわたり、ポートメッセなごやにおいて、日本の「モノづくり」の基盤を強化し、一層の発展を期することを目的として「生産システムのトータルマネジメントをサポートする」をテーマに、「モノづくりワールド2002名古屋-製造技術総合展」が開催されました。

産総研では、中部センターに拠点を

置く研究ユニットの紹介を中心に広報活動を行いました。

セラミックス研究部門からは、企業との共同研究により商品化された技術として、「光触媒」と「調湿建材」の2テーマを、基礎素材研究部門からは、今後製品化に結びつくと思われる最新の技術として、「選択型熱放射材料」と「廃タイヤリサイクル技術」の2テーマを、



パネル、サンプル、デモンストレーション等で紹介しました。

期間中は、多数の来場者が産総研ブースを訪れ、それぞれの説明に対し熱心に聞き入る姿が見られました。



## 地質調査総合センター記念講演会

<http://www.aist.go.jp/GSJ/Info/event/2002/kinen/kinen.html>

6月7日(金)、東京の明治記念館において、産総研「地質の調査」分野の総括的な実施体である地質調査総合センターの創設記念講演会が開催されました。当センターはその前身機関である工業技術院地質調査所の業務を継承しており、本年は同所創立から120周年にあたるため、これを併せて記念する催しとなり、250名の参加がありました。

講演会は平石副理事長の開会挨拶に

始まり、経済産業省をはじめ、関連業界、学界からのご祝辞の後、米国地質調査所 Dr. J. Devine 上級科学顧問、中国地質調査所 Dr. Zhang Hongtao 副所長による記念講演が行われました。両調査所からは、両国における地質調査所の現状、世界における地質調査所の役割の変遷と今後の果たすべき役割、および日本への期待が述べられました。当センターからは最近の研究のトピックスとして、雲仙火山掘削の科学



的意義を紹介しました。それを受けて、島原市吉岡市長から、当センターによる調査観測活動への地元の期待の言葉が述べられました。